2024 年 6 月

ポンペ＝元祖、日本西洋医学教育者

　ポンペ・ファン・メールデルフォールトは幕末の長崎にやってきたオランダ人医師です。同じく長崎へやってきて西洋医学を紹介したシーボルトのことは、その物語性もあって、広く知られていますが、「ポンペ」については、長崎にいても御存じない方が多いようです。シーボルトはそれより 30 年程前に西洋医学の技術的なコツを教えましたが、ポンペは、現在の医学部の元になる教育を行い、日本における現代医療の基礎を作りました。その始まりの日が１８５７年１１月１２日であり、それが現在の長崎大学医学部の開学記念日になっています。

　ポンペは、数学、物理学、化学といった科学の基礎から、解剖学、生理学などの基礎医学、内科学、外科学、産科学などの臨床医学までを、一番弟子の松本良順をはじめとした全国からの学生たちに教えました。さらに当時流行したコレラの治療を身分の違いなく広く行いました。これは当時の封建的身分制度からすると、考えられない事で、幕府から様々な圧力がありました。

　ポンペが教え、実践した医療は、いつの時代も変わらぬ科学と博愛に基づいた医療です。このことは細分化して複雑になった現代医療においても変わらず、更に重要になっています。長崎大学出身の私としては、ポンペ先生は偉大な師匠になります。ともすると技術に傾きがちの現代医療ですが、物理化学などの自然科学や、文学などの人文科学も土台として忘れず大切にしていきたいと思います。

　司馬遼太郎の「胡蝶の夢」に、ポンペとその弟子達や勝海舟などの幕末の志士達のことが物語られていますので、興味がある方はご一読下さい。別の角度から幕末が見えてきます。